

# 令和2年度 第3回石橋北小学校学校運営協議会議事録

令和3年2月15日（月）10:00  
於 校長室

## 【参加者】14名

- 学校運営協議会委員（10名）  
大塩宗里 野口利男 伊藤弘毅 國枝勝 折原利吉 青柳庄一 青柳高弘 大谷淳子  
青木浩美校長 安野和美地域連携教員
- 地域学校協働活動推進員 西本由利子
- 学校教育課 松川 博美
- 事務局  
坂本美保教頭 岡本直美教務主任

## 開会

- 1 委員長あいさつ
- 2 校長あいさつ
- 3 協議内容等
  - (1) 今年度の教育活動についての振り返り
  - (2) 学校評価について（これまでの取組、学校運営上の課題について）
  - (3) 質疑

協議内容 | 今年度の教育活動についての振り返り

(1)

校長

学校の様子について説明

（4月～の学校の様子をプレゼンテーションソフトにて説明）

- 3A運動の推進、子どもたちは暗記している。
- 心の教育を一番に考えている。
- 地域の教育力が高い。最大限に活用させていただく。
- 校庭で新任式、始業式を実施した。
- 5月、分散登校。子どもたちは学校に来て嬉しい様子だった。学校の存在意義や友達と学習することの意味を実感することができた。
- 6月、学校休業が終わり、全員登校となった。子どもたちは楽しそうな様子で、当たり前に行えることの大切さを感じた。
- 簡易給食から始まり、感染リスクを下げるために黙って食事をしている。給食当番の白衣の使い回しをやめ、自分のエプロンや三角巾を用意していただいている。ご家庭の協力を得て混乱もなかった。
- 集会活動は各教室に分かれて放送等で実施した。子どもたちのアイデアを生かしながら工夫して実施した。1年生を迎える会では、上学年がビデオレターを作成し、各教室で視聴した。
- 新型コロナウイルス感染症対策として補助金の活用。ミストや網戸を取り付け熱中症対策にも活用できた。ミストは子どもたちに好評だった。消毒用にオートディスペンサーを購入した。
- 修学旅行は、9月に保護者説明会を開催し、感染症対策について説明をした。10月の予定を12月に延期して実施したが、他の利用団体もなくゆとりを持って活動することができた。ホテルでの感染症対策も十分に配慮して行っていた。

- ・学校支援ボランティアの皆様には、稲刈り、読み聞かせ（9月～）等でお世話になった。感染症対策により例年より行事が削減されたが協力していただいた。
- ・10月28日に創立40周年記念行事では、地域の方々に来ていただけなかったことが大変残念だった。PTAの準備委員さんや自主的に実行委員となった5、6年生の子どもたちによる手作り感のある素晴らしい式典となった。
- ・全校遠足や運動会、持久走大会等外での行事は実施することができた。
- ・スクールガードボランティアさんには、学校休業明けからご協力いただいている。お陰様で交通事故、防犯の事故は1件もなかった。
- ・GIGA スクールの準備が進んでいる。各教室に保管庫が置かれ、4月から児童職員一人一人にタブレットが支給される。多様なニーズに対応するための事業でもある。
- ・コロナ禍でも子どもたちは頑張っていた。手洗い、消毒も習慣となった。しかし、不登校傾向の児童が昨年度より増え、学校生活に不適應を起こしている児童が1年生にも見られる。
- ・感染症対策を行い、学校の意義を感じながら取り組んできた1年だった。

委員 ・子どもたちは元気そうに生活している。

委員 ・PTAの活動ができなかった。  
・創立40周年記念行事は、子ども主体で実施され、より心に残る式典となった。

委員 ・40周年記念行事に参加したが、子ども主体で行われ、子どもたちの思いが伝わってきて、とても良い行事だった。

校長 ・創立に関わった方々にインタビューをしたことで、子どもたちは地域の方々の思いを実感することができた。子どもからの感想も多かった。  
・当初は県警音楽隊の演奏を考えていたが、形を変えて実施した。缶バッジのデザインの意味を知った。子どもたちの思いや考えを形にすることができて良かった。

委員 ・真っ青な空に風船が飛んでいくところが良かった。

委員 ・先生やPTAが主体ではなく、子ども主体であったことがとても良かった。校舎を飾り付けようという考えは子どもしか思いつかない。

校長 ・自分たちが考えたことを実行できたことは、今の教育に合致することである。3日に「あせの日」を行うが、子どもたちが考えた40周年記念行事の一つである「なかよし像」を磨く活動もある。

委員 ・教育目標の順序性というものはないのかもしれないが、第一に心豊かな子、第二に進んで学ぶ子というのは、当然の順序ではないかと思う。石橋北小に合っている。

協議内容 学校評価について（これまでの取組、学校運営上の課題について）

(2)

校長 学校評価について資料を基に説明

- ・あいさつについての項目では、子どもと保護者先生で評価に開きがある。声が小さいが子どもたちは挨拶ができていていると思っている。あいさつ運動は委員

会活動で実施できるようになった。

- ・思いやりの項目は、昨年より上がってきている。コロナの影響か。
- ・自己肯定感が向上してきた。トータルとしての評価はBだが、数値的には上がっている。
- ・「進んで学ぶ子」について、保護者の評価が厳しめのようなのである。学力調査の結果、4年生や5年生は昨年度より少し上がっている。学力向上推進リーダーの活用により、先生方が授業改善を意識している。学校評価としては厳しい見方をしている。
- ・「健康でたくましい子」については、感染症対策を意識しているせいか大きく数値が上がっている。
- ・「信頼される学校」については、「先生一人一人は児童をよく見ている」の項目で保護者による評価が低かった。学校としても反省すべきことである。家庭訪問や懇談会等が実施できず、先生と保護者が話す機会が減ってしまったことが原因と考えられる。特に1年生について、何らかの形で話す機会を設ける必要がある。同僚性は上がっており、コロナ禍で一致団結できている結果と考えられる。

委員 ・ 質問等オープンでお願いします。

委員 ・ 先生方と保護者の面談がなかったことについては話が出ていた。早いうちにコミュニケーションをとって保護者の安心感が得られるようにしてほしい。

教頭 ・ 学校評価に対する保護者からの御意見はすべて資料に記載している。

校長 ・ 1年生の保護者には学校の様子が見えなかったようなので、伝え方を工夫していきたい。

委員 ・ 学校と保護者の連携が必要である。

委員 ・ 保護者からコロナの情報は知らせてほしいという意見があったがどうということなのか。

校長 ・ 家族がPCR検査を受けたことや、濃厚接触者になったという連絡は受けていたが、市教委や保健所と連絡を取りながら対応してきた。学校に消毒業者が入ることもなかったので連絡はしてなかった。全体に知らせることは混乱を招きかねない。理解を得られるよう努めたい。

委員 ・ 学校から全て連絡することはない。状況に応じて対応していくしかない。

校長 ・ 感染リスクがあれば連絡しなくてはいけないと考えている。

委員 ・ 全部を知らせるかどうかは、判断が難しい。

校長 ・ PCR検査を受けている保護者は多い。

委員 ・ 今後陽性者が出る可能性はある。その場合、マニュアルがあると良いのでは。

校長 ・ マニュアルはある。濃厚接触者が出た場合は知らせず、陽性者が出た場合は知らせることになっている。

委員 ・ 保護者がマニュアルの内容を知っていれば、このような意見は出ないのでは

ないか。

委員 ・考え方はいろいろあるので、100%理解していただくことは難しい。学校としては、よくやっていると思う。

校長 ・学校に直接連絡していただければ、ご説明をする。今回も直接連絡していただいたので、説明することはできた。

委員 ・幼稚園での悩みは、保護者が通知を読んでくれないということらしい。

校長 ・学校としては、通知と一斉メールの両方で知らせている。

委員 ・子どもの評価が良い。子どもは一生懸命頑張っていることが分かる。

校長 ・小中一貫教育で、特別活動部会が中心となり、学級力アンケートを実施している。質問項目も適切で、実施後は学級の話合い活動で、自分の学級をより良くしようと子どもたちが考えることができる。心の教育の手立てになったかと思う。

協議内容 令和3年度の学校行事について  
(3)

教務 ・令和3年度の年間行事予定について説明  
・運動会は11月実施。それに伴い全校遠足を5月の連休明けに予定した。  
・授業間の休み時間を10分間確保した。感染症対策による手洗い等の時間を確保するため。

委員 ・昨年度後半から月曜日の下校を早くしたが、今後も継続していくのか。

校長 ・働き方改革のすすめと授業力向上をめざすことが目的である。教材研究の時間が取れないという先生方の悩みが多かった。授業より活動ありきになってしまっていたためかもしれない。月曜日は研修会や会議を実施しておらず、先生方は授業の準備や学力向上推進リーダーに授業を見てもらい、授業スタイルを見直すための授業計画シートの作成に活用している。子どもたちへのしわ寄せはあると思うが、子どもの学力は上がってきており、活用力の向上が見られた。しかし、基礎・基本があまり定着されておらず、漢字を正しく書くことや計算力が低い。1月からは、「算数のじかん」を朝の学習に位置付けて、基礎・基本の習熟の時間としている。  
現状を客観的にとらえ、子どもたちの力を最大限に生かすことが大事である。

委員 ・運動会は来年度も午前中の実施か。

校長 ・給食については検討を要するが、短縮して午前の実施である。5月にマスクをしての運動会は、熱中症の心配もあり無理である。

委員 ・1年生にとっても学校生活に慣れたところで11月が良い。

校長 ・6月に家庭訪問を予定している。学校生活が一段落したところで保護者と話ができればと思う。

委員 ・感染リスクを考えると、運動会の短縮も仕方がない。

校長 ・ 休み時間を10分間にしたが、本校は10年間日課の変更がなくノーチャイムで生活していたが、感染症対策としては変更が必要だった。

委員 ・ 保護者との面談の時期を入れてほしい。特に1年生や6年生。

教務 ・ 夏休みに入った7月中に面談を希望する保護者との時間を設ける予定である。

(質疑)

校長 ・ スクールガードボランティアは、募集してもなかなか難しい。ご近所の方へお声掛けをお願いしたい。何か良い方法はないか。

委員 ・ 自治会でお知らせしてほしい。

委員 ・ 今年で16年目となる。

校長 ・ 活動を継続させるためには、多くのボランティアさんが必要。

委員 ・ 校長先生に地域の体操教室に来てもらって説明してもらったが登下校を一緒に歩いてくださる方はいなかった。

校長 ・ ベストを着て見守りはしてくださるが、歩いて来るとなると難しい。

委員 ・ 個別に声を掛けないと難しい。PTAからアクションを起こしてもらおうと良い。祖父母へ声を掛けてほしい。

委員 ・ 児童が在籍している間だけでも協力してもらえると良い。

委員 ・ 自治会で回覧版を回しても連絡はなかったのか。

校長 ・ なかった。いろいろな方法で働きかけなくてはならない。

委員 ・ 通学路の工場の塀が崩れたことについて、挨拶に行く。通学路の安全確保という面からもスクールガードボランティアから話に行った方が良い。

校長 ・ 田植えや稲刈り、植木剪定でお世話になっているボランティアさん2名が下野市の表彰を受けた。

委員 令和3年度の学校経営について、お金はどのように使われているのか聞いたことがない。子どもが表彰されて報奨金はないのか。指導して表彰されたのは学校の力であり、市からお金がもらえると良い。先生もやる気が出るのではないか。市や県からお金が出たら、グリーン環境も変わるかもしれない。

校長 ・ 市からは特色ある活動としてお金を出してもらっている。今後は市の財政による。

委員 ・ コロナ禍で、教職員の悩み等はないか。世間一般ではIT化も増えているが、教員志願者が少なくなっている。

校長 ・ 仕事はエンドレスにあり、元気でないと仕事はできない。児童の主体性を育

てるには、教員の主体性が必要。教員は、子どもからエネルギーをもらっているが、家庭生活も充実していることが大切。早めに帰って身体を休ませることも必要だし、これからは、ますますONとOFFの切り替えをしていくことが求められる。

その他 ・ 来年度の委員について、新しく3名の任命をお願いします。

閉会